

中部ESD拠点運営委員会（第30回）議事メモ

日 時 平成22年11月5日（金）18時30分～20時50分

場 所 中部大学名古屋キャンパス（6階大ホール）

出席者 竹内委員長、寺井、黒岩、羽後、武者小路の各委員

オブザーバー 駒宮

事務局 永田、古澤、酒井

議 事

1. 報告事項

・COP10での活動

古澤事務局員から、平成22年10月11日(月)～29日(金)に名古屋国際会議場にて開催された生物多様性条約締約国会議 COP10 の期間中において、国内 RCE 連携フォーラムが10月20日(水)に開催され、延べ80名以上の参加があったことが報告された。また、企画協力した里山弁当についての報告がされた。サイバー対話事業や対話フォーラムなどの成果は、議題3で論じることとした。

・助成金申請について

古澤事務局員から、あいちモリコロ基金助成金申請について、配付資料の通り申請したとの報告があった。審査結果の通知については、例年通り翌年1月下旬に郵送により通知があり、公開審査会については、2月下旬～3月上旬となる予定である。今回の公開審査会には、竹内委員長初め運営委員の方々へ出席いただくよう依頼した。また、骨子となる3つの目標は、以下の通りである。

- 2012年「リオ+20」（地球サミット）に向けて、世界に発信できるよう中部ESD拠点の持続可能な開発のための取組みを強化すること（伊勢・三河湾流域圏プロジェクトの強化）。
- 2012年生物多様性条約 COP11 に向けて、中部ESD拠点が中核となって COP10 で実施したサイバー対話を発展させること。
- DESD 総括会議の内容が決定される2011年 UNESCO 総会に向けて、中部ESD拠点が中心になって、成果目標を提言すること（ESDの10年・地球市民フォーラム2011の開催）。

2. プロジェクト推進の進捗状況について

武者小路委員より、COP10 支援事業の成果が報告され、今後、2012年の COP11 に向けて、サイバー対話をさらに発展させ、COP10 で積み残した課題の解決を目指して対話を継続したい旨、また、実質的には中部 ESD 拠点運営委員会の承認のもとに組織されている「サイバー対話企画会議」がその推進を行う旨が提案され、一同これを承認した。また、今後の活動計画に関する詳細は、

第4回中部ESD拠点総会に向けて作成する第4事業年度の活動計画書に記載すべく、武者小路委員が作成することとなった。

3. 第4回中部ESD拠点総会及びフォーラムについて

古澤事務局員から、平成22年11月20日(土)に開催される第4回中部ESD拠点総会及び第4回中部ESD拠点フォーラム次第について、配付資料に基づき説明があり、内容に関して以下の通り議論された。

- 香坂玲先生の時間の都合上、9時30分から11時15分までを第4回中部ESD拠点フォーラムを開催し、11時15分から12時まで第4回中部ESD拠点総会を行うこととした。
- 中部ESD拠点総会における「第3事業年度の活動報告」については、1. 伊勢・三河湾流域圏プロジェクトは羽後委員、2. 生物多様性条約締約国会議COP10への貢献事業1)「COP10に向けてのサイバー対話プロジェクト」および対話フォーラムに関する報告は武者小路委員、2) COP10 サイドイベントや生物多様性交流フェアにおける活動に関する報告は古澤事務局員、3. 若者による伊勢・三河湾流域圏持続性戦略づくりプロジェクトについては、竹内委員長へまとめを依頼した。
- 「第4事業年度の活動計画」については、あいちモリコロ基金申請書へ記載した3つの目標を骨子として、各委員から追記・修正を受けた後、事務局で作成することとなった。
- 各委員に分担された総会資料作成のための書類は、提出締切を11月15日(月)として事務局に提出することとした。

4. その他

1) 中部ESD拠点協議会参加申請について

中部ESD拠点協議会への参加申請が2件あり、審議の結果、以下の2団体が参加承認となった。

「名古屋志段味の里地を残す会」

「アジア日本相互交流センター・ICAN (NPO 法人)」

2) 地球市民フォーラム2011について

古澤事務局員から、平成23年9月30日(金)~10月1日(土)に愛知で開催される案が出ている「ESDの10年・地球市民会議2011」についての説明があった。この事業に関しては、モリコロ基金の申請内容および第4事業年度の活動計画へも組み込まれている企画であるため、次回総会における事業計画承認を経て、中部ESD拠点としての参画・共催を機関決定することとした。

3) 第3回RCE アジア・太平洋会議について

古澤事務局員から、平成22年11月9日(火)~12日(金)にインドネシア・ジョグジャカルタにおいて開催されるRCE A-P Meetingについて、事務局からは古澤事務局員が参加する予定であり、中部ESD拠点として報告すべきことについて種々議論を行った。

- ・ 武者小路委員から、継続するサイバー対話への参加依頼と、リニューアルするサイトへの希望や助言を聞き取ってほしい旨、依頼があった。
- ・ 2009年のボン会議にて決定した2014年「ESDの10年」総括国際会議の日本開催に伴い、アジアのRCEで2014年に向けて何らかの協働をはじめたい旨を報告することとした。

4) 平針の里山保全協議会コメントについて

古澤事務局員から、平針の里山保全協議会から、中部ESD拠点として平針の里山伐採問題に対する声明文を依頼され、議論の結果以下の通り発信することとした。

中部ESD拠点(国連「持続可能な開発のための教育の10年」に関わる地域拠点

(RCE:Regional Centre of Expertise on Education for Sustainable Development)からの平針里山問題に対する声明文)

「名古屋市平針に残された里山は、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)において採択された愛知ターゲットを実現する重要な生物多様性の地であると同時に、地域住民による里山の恵みを享受・活用する場であり、そのこと自体が持続可能な発展のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)を実現するためのフィールドとしての高い価値を持つと考えられる。今後、関係各所および関係者が知恵を出し合って、この里山が保全されることを願う。」(2010年11月5日)

以上。